



*『ジャイモシ』ネパール語で「主(神)を讃美しましょう」の意

今、ネパールに最も必要なこと

～ 第1回ネパール・スタディー・ツアーに参加して ～

今回、支援者の一人として、2週間足らずの短期訪問であったが、現地に在って、多くのことを学ぶことができたのは本当に感謝であった。何れの国家にも、尊重されるべき多様な歴史的・文化的背景があり、それが国民性を醸成する一方、最貧国の一つである故のネパールの抱える問題・課題がある。例えば、不十分な社会基盤施設、容易に消え難いカーストの因習、ヒンズー教的男女差別の問題の生活・文化・教育等への深い影響等々、解決が容易でない事柄が多々あることは、見聞するところである。今回の訪問を通して、その現実の一端を、まさしく見学できた。これらの問題の一つ一つが良い方向へと改善されるためには、ネパールの人々の知的・文化的識見の向上は基より、健全な価値観に裏付けられた内なる人としての生き方や意識が重要であることは言うまでもない。

すなわち、今、ネパールに最も必要かつ重要なことは、そのような有為な人材を育成する教育である。依然として、30～50%という識字率の低さ、就学率の低さ(特に女子就学率)、貧困による中等・高等教育施設の不足に問題点が端的に表れている。その上、初等および中期中等教育の修業年数は、5-3-2の10年間で、これは国際水準の12年間に比して、不足し、種々の問題点を生じている。ネパールも国家として国際的な基準を目標に、教育水準の向上を目指した学制改革の途上にあるが、政情不安もあり、実現には困難が伴うであろう。

BFNの支援校であるニュー・ホライズン・アカデミー(NHA)は、現在626名の生徒が学んでいる私学である。3年間の幼児教育と小・中・高までの10年間、通算13年間の一貫教育を行い、ネパールの将来を託す優秀な人材育成をビジョンに置き、教職員が一丸となって熱心に教育活動に当たっている。ネパールの現行教育制度での10学年修了は、日本の高等学校教育修了に相当する。全国のすべて学校は、10学年を修了するとSLC(School Leaving Certificate:中等教育修了資格)試験の受験資格が与えられる。このSLC試験は、高校卒業認定試験と大学(カレッジ)入学試験を兼ねている。NHAでは、学力の向上のため8～10年生全員に対して毎日、早朝と放課後に特別クラスで補講を行い、今年始めて卒業生を出した。全員優秀な成績でSLCに合格が見込まれている。また、国際社会に通用する人材育成のために授業は、国語を除いてすべて英語で行いTOEICの受験指導も行われている。

更に、今年('09)1月から、在校生を対象としたバイブルクラス(自主参加)の授業も始まり、毎週金曜日、2クラス50～60名の受講生に対し体系的な聖書の学習が行われるようになった。着実に一步一步、ネパールの将来を担う有為な人材育成の努力がなされていることを実感した。

生徒一人ひとりの笑顔を忘れることなく、今後も支援者の一人として、この国の将来に希望を持って見ていきたいと思う。

支援者の皆様の上に、神様の祝福が豊かにありますように。

岩崎 幸三



目次:

今、ネパールに最も必要なこと	1
支援者の皆様に感謝のことば	2
NHA第一回卒業式	2
支援者状況	2
新規に支援される子供たち	2
質問箱	3
ネパール豆知識	3
2008年度決算報告	4

ハイライト:

NHA第一回卒業式
(2ページに写真を掲載)

里子認定書を伝達
(3ページに写真を掲載)

2008年度決算報告
(4ページに決算報告書を掲載)

NPO法人 ブリッジズ・フォー・ネパール (BFN)

事務局: 〒569-0811 大阪府高槻市東五百住町3丁目1番4号(鬼頭宅)

Tel/Fax 072-695-0513

URL: <http://www.npo-bfn.org>

支援者の皆様に感謝のこたば

ニュー・ホライズン・アカデミー(NHA)は、奉仕の精神により運営されている私立学校です。NHAは、貧しいマチェガウン村(カトマンズ市の西部農村地域)の子供たちの教育のために、2001年に創設されました。

現在、幼稚園から第10学年まで626名の生徒が学んでいますが、大半の生徒は、貧困層又は極貧層の先住民(*)の子供たちです。

NHAのビジョンは、「神にあって良き人格と知識を持った市民の育成」です。単に学問的知識を修得させるだけではなく、生徒たちが神に対する畏怖や知識を持つように努めています。十分な教育施設や設備はありませんが、熱心な教師30名、それを支える職員9名と共に少しでも子供たちに明るい未来を提供できるように毎日励んでいます。

支援者の皆様には、NHAの生徒たちの学費や運営費のために心を寄せていただき、厚く御礼申し上げます。皆様からの尊い賜物は、PEN(*)を通じて、生徒たちの毎月の学費や学校運営費に使用させていただいております。

紙面をお借りしまして、支援者の皆様の多大な援助に、心よりの感謝を申し上げます。



ニュー・ホライズン・アカデミー 校長 クリスマ・ソマイ

(*) 先住民(ネパールは30以上の民族から成る多民族国家であり、カトマンズ周辺には、先住民であるネアル人が多く住んでいる。)

(*) PEN(NGO:プロ・エデュケーション・ネパール)

NHA第一回卒業式

ニュー・ホライズン・アカデミー(NHA)で2009年4月15日に第一回卒業式が行われ、22名の10学年生が卒業し、慣れ親しんだ学び舎を巣立って行きました。ネパールでは小学・中学・高校の入学式は行っても卒業式は無く、大学のみで挙行されるのが慣例でした。NHAで行われたの高校の卒業式は、NHAのみならずネパールの教育史に残る記念すべき全国初の学校行事となりました。



チェ・クンミン理事長と卒業生たち



BFN賞の贈呈 卒業生に対しBFNから、善行賞、学業優秀賞など22名にBFN賞が贈られた

支援者状況 2008年度(4月~2009年3月) 最終報告

2009年3月31日現在

区分	人数・件数	金額	備考
賛助会員	55名	月額 2,500円	
スポット支援	30件	705,141円	

*年度は、会計年度とする(4月から翌年3月まで)。

新規に支援される子供たち(2008年12月~2009年3月)

氏名	性別・学年	氏名	性別・学年	氏名	性別・学年
ラジト・マハリヤン	男 2年生	ロジナ・アレ・マガル	女 2年生	アンジラ・マハリヤン	女 2年生
ヤシュミン・シレスタ	女 2年生	ジョッチ・アディカリ	女 2年生	ジョッチ・アディカリ	男 2年生
アクリチ・ラジタラ	女 幼稚園児	サミル・ライ	男 幼稚園児	スヨグ・ラジ・シャルマ	男 幼稚園児
サチシュ・マナンハル	男 1年生	サンジャヤ・ガルチ	男 7年生	サミル・マハリヤン	男 3年生
ラシラ・タパ	女 5年生	サムジャナ・カルキ	女 5年生	サミプ・アルヤル	男 5年生



質問箱

質問1 「どうして、里親からの支援金を直接実の親や里子に渡さないのですか？」

回答

里親からの支援金は、PENを通じて、NHAに送金されます。お金を直接実の親や里子に渡さない理由は大きく二つあります。一つは、ネパールには、日本のような銀行システムが十分でなく、振り込みが容易ではありません。また貧しい親は、銀行に口座がありませんので、お金を学校で子供に直接渡すこととなります。子供たちに学校で多額のお金を持たすことは教育上良くないですし、また他の子供たちに知れることとなります。支援されない子供たちの間で格差が生じます。二つには、貧しさの故に実の親たちが生活のために(悪い目的と言う意味でなく)使用して、授業料の滞納や遅延になります。また滞納後に子供を退学させたりすることもあります。授業料は、学年によって違いますが、支援金から授業料を差し引いた残額も学校の設備費等に充当されます。現行のシステムは、他のNPO団体でも行っている里親の暖かい支援を無駄にしないための最良の方法と考えております。

質問2 「里子や実の親は、里親のことをどのように知らされるのですか？」

回答

里親からの支援によって無料で学校の授業を受けられることを里子や実の親に知らせるために、学校では校長室にて里子認定書の伝達式を行います。

認定書は、校長先生やPENの代表のもとで里子に手渡されます(他の子供に知られないように)。

認定書には、里親・里子の氏名、支援内容、支援期間などが記載されてあります。



ビル・バドルPEN理事長から里子認定書を伝達される生徒

ネパール豆知識 (これって知ってた?)

○ネパールの国旗は世界で唯一の二重三角旗である。 ○旗の中の月と太陽には、人の顔が描かれていた。

この特徴的な形は、ネパール王国の王家と宰相家が使用していた2つの三角旗を組み合わせて簡略化したことに由来しています。

二つの三角形は、ヒマラヤの山並みを現しています。また二大宗教であるヒンズー教と仏教も意味しています。旗の中には、月と太陽が描かれていますが、ネパールが月や太陽と同じように持続し、発展するようという願いが込められています。

旗の中の真紅の色は、国花であるシャクナゲの色で、ネパールのナショナルカラーです。また、赤は、国民の勇敢さを、縁取りの青は、平和を現しています。



かつては、月と太陽の中には、人の顔が描かれていました。ネパール王国(シャーマン朝)は、1768年に全国を統一したシャーマン家が王位を継承しましたが、19世紀半ば以降20世紀半ばまでは、ラナ家が宰相職を世襲し、実質的にネパールを支配しました。

もともと三日月は、シャーマン家(王家)を、太陽は、ラナ家(宰相家)を意味し、単独の三角旗として、それぞれ約200年の永きに渡って使用されていました。ラナ家が実権を握った19世紀半ば以降、ネパール王国の旗として両家の旗を重ねた二重三角旗が使われるようになりました。

1951年のトリブバン国王によるシャーマン家の王政復古、1960年のマヘンドラ国王による「国王のクーデター」を経て、1962年12月16日に現行の国旗が制定され、月と太陽の顔は、この時に取り除かれました。

2008年度 決算報告

平成21年3月31日現在

収支決算書

(単位 円)

収入の部			支出の部			
科目	収入額		科目	支出額		
入会金・会費	正会員入会金	110,000	事業費	未就学児童への支援事業	426,572	
	正会員会費	462,000		教育機関への支援事業	145,915	
	賛助会員会費	642,500		医療支援事業	0	
寄付金	705,141	日本における啓蒙活動事業		100,748		
雑収入	355	管理費	会費収納管理費(会費引落手数料)	105,734		
当期収入合計(A)	1,919,996		郵送料・通信費	133,910		
繰越金	0		消耗品費	36,361		
前期繰越金	0		設立事務手数料	31,300		
収入合計(B)		1,919,996	支出合計(C)		980,540	
					当期収支差額(A) - (C)	939,456
					次期繰越収支差額(B) - (C)	939,456

貸借対照表

(単位 円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	0
現金	57,345	【固定負債】	0
預貯金		負債の部合計	0
三井住友銀行	489,431	純資産の部	
ゆうちょ銀行	392,680	賛助会費繰越金	42,164
【固定資産】	0	スポット支援金繰越金	554,490
		事務費繰越金	214,302
		長期ビジョン積立金	128,500
		純資産の部合計	939,456
資産の部合計	939,456	負債・純資産の部合計	939,456

決算補足説明

* 賛助会費繰越分

3月送金時の差益分(2000円送金の差額)です。12月送金の差額(45,915円を教育機関への支援事業に含む)は、第1回卒業式の費用に充てました。

* スポット支援繰越分

スポット支援は年ごとの目標支援金を定めています。(第1号「ジャイモシ」参照)よって、支援金の多くを繰り越すことになりました。今後、計画を見直し支援額の増加を検討します。

* 事務費繰越分

正会員の会費は、すべて事務費に充てます。来年度は設立事務経費など不要になる経費もありますので、事務費は最小限度に抑制し、残りは支援事業に回します。

* 長期ビジョン積立金

当初、賛助会費月額2500円のうち500円は事務費の予定でしたが、500円を長期ビジョン積立金として積み立てます。今後、必要かつ具体的な長期ビジョンを明確にする予定です。(校舎改修、通学バスなど高額なもの)但し、スポット支援については、20%の事務費を徴収し、事務費バランスを考慮しつつ支援金に回します。